

会員事業所景況実態調査令和4年4月～令和4年6月分集計結果
調査依頼数:553 回答数 75 回答割合:13.6%

令和4年度1回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおり報告いたします。
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

★DI値とは

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から
 減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で
 景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

【質問 A】 前年同時期と比較した4月～6月の景況

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	17	31	27	75	▲ 13.3	▲ 40.5	27.1
	採算	8	36	31	75	▲ 30.7	▲ 37.3	6.7
	仕入単価	0	18	56	74	▲ 75.7	▲ 70.4	▲5.3
	従業員	19	53	3	75	21.3	14.8	6.5
	業況	7	39	29	75	▲ 29.3	▲ 36.1	6.8
	資金繰り	1	55	18	74	▲ 23.0	▲ 20.2	▲2.7
建設・建築業	売上	4	10	2	16	12.5	▲ 35.3	47.8
	採算	2	9	5	16	▲ 18.8	▲ 29.4	10.7
	仕入単価		2	14	16	▲ 87.5	▲ 88.2	0.7
	従業員	4	12		16	25.0	29.4	▲4.4
	業況	1	13	2	16	▲ 6.3	▲ 17.6	11.4
	資金繰り		13	3	16	▲ 18.8	▲ 11.8	▲7.0
製造業	売上	3	3	7	13	▲ 30.8	▲ 46.2	15.4
	採算	1	4	8	13	▲ 53.8	▲ 38.5	▲15.4
	仕入単価			12	12	▲ 100.0	▲ 84.6	▲15.4
	従業員	1	10	2	13	▲ 7.7	7.7	▲15.4
	業況	1	4	8	13	▲ 53.8	▲ 30.8	▲23.1
	資金繰り		7	6	13	▲ 46.2	▲ 7.7	▲38.5
卸・小売業	売上	1	4	6	11	▲ 45.5	▲ 42.9	▲2.6
	採算	1	4	6	11	▲ 45.5	▲ 46.2	0.7
	仕入単価		2	9	11	▲ 81.8	▲ 53.8	▲28.0
	従業員	4	6	1	11	27.3	15.4	11.9
	業況		6	5	11	▲ 45.5	▲ 53.8	8.4
	資金繰り		7	4	11	▲ 36.4	▲ 14.3	▲22.1
飲食・サービス業	売上	8	9	7	24	4.2	▲ 46.7	50.8
	採算	3	15	6	24	▲ 12.5	▲ 40.0	27.5
	仕入単価		9	15	24	▲ 62.5	▲ 66.7	4.2
	従業員	6	18		24	25.0	26.7	▲1.7
	業況	4	12	8	24	▲ 16.7	▲ 40.0	23.3
	資金繰り	1	21	2	24	▲ 4.2	▲ 33.3	29.2
不動産・その他	売上	1	5	5	11	▲ 36.4	▲ 36.0	▲0.4
	採算	1	4	6	11	▲ 45.5	▲ 36.0	▲9.5
	仕入単価		5	6	11	▲ 54.5	▲ 60.9	6.3
	従業員	4	7		11	36.4	0.0	36.4
	業況	1	4	6	11	▲ 45.5	▲ 40.0	▲5.5
	資金繰り		7	3	10	▲ 30.0	▲ 28.0	▲2.0

(全体)

仕入単価、従業員、資金繰り以外で前回より改善しており、特に売上は30ポイント近く改善し、DI値も▲10ポイント台に改善している。
 一方、仕入単価は前回より多少悪化しているが、依然として▲75ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなっている。
 従業員を見ると、若干ではあるが人手不足感がより強くなっている。

(建設・建築業)

資金繰り以外は前回より回復しており、特に売上は50ポイント近く改善しDI値もプラスに転じている。仕入単価は若干改善しているものの
 依然としてDI値は▲90ポイント近くとマイナスポイントが非常に高くなっている。

(製造業)

売上、従業員以外は前回よりも悪化しており、特に資金繰りは40ポイント近く、業況は20ポイント以上と大きく悪化している。また、DI値では
 仕入単価のDI値が▲100ポイントと回答いただいた全事業所で仕入単価の上昇を感じている。他にも採算、業況がDI値▲50ポイント以上、
 資金繰りが▲50ポイント近くとマイナスポイントが高くなっている。従業員ではDI値がマイナスとなり人手過剰感が強まっている。

(卸・小売業)

採算、業況以外は前回よりも悪化しており、特に仕入単価が30ポイント近く悪化しており、DI値も▲80ポイント以上と非常に高くなっている。
 また、売上、採算、業況はDI値▲40ポイント以上、資金繰りは▲40ポイント近くとマイナスポイントが非常に高くなっている項目が多い。

(飲食・サービス業)

全国目で前回よりも改善しており、特に売上が50ポイント以上改善し、DI値もプラスに転じている。採算、業況、資金繰りでも20ポイント以上
 と大きく改善し、DI値のマイナスポイントも小さくなっている。一方、仕入単価は若干改善しているもののDI値は依然として▲60ポイント以上と
 非常に高くなっている。

(不動産・その他)

仕入単価以外は前回より悪化しており、特に従業員では30ポイント以上悪化し従業員不足感が強まっている。また、採算、業況はDI値が▲40ポイント以上と依然として高くなっている。一方、仕入単価は若干改善しているもののDI値は▲50ポイント以上と依然として高くなっている。

【質問 A】 6月と比較した7月～9月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	11	37	27	75	▲ 21.3	▲35.4	14.0
	採算	4	41	29	74	▲ 33.8	▲35.8	2.0
	仕入単価	1	18	55	74	▲ 73.0	▲78.8	5.8
	従業員	24	47	3	74	28.4	12.3	16.0
	業況	5	37	33	75	▲ 37.3	▲30.1	▲7.2
	資金繰り	1	50	22	73	▲ 28.8	▲19.5	▲9.3
建設・建築業	売上	2	9	5	16	▲ 18.8	▲35.3	16.5
	採算		9	7	16	▲ 43.8	▲23.5	▲20.2
	仕入単価		3	13	16	▲ 81.3	▲100.0	18.8
	従業員	7	9		16	43.8	29.4	14.3
	業況		10	6	16	▲ 37.5	▲23.5	▲14.0
	資金繰り		12	4	16	▲ 25.0	▲11.8	▲13.2
製造業	売上	2	6	5	13	▲ 23.1	▲30.8	7.7
	採算	2	7	4	13	▲ 15.4	▲23.1	7.7
	仕入単価			12	12	▲ 100.0	▲92.3	▲7.7
	従業員	2	9	1	12	8.3	0.0	8.3
	業況	1	6	6	13	▲ 38.5	▲23.1	▲15.4
	資金繰り		8	4	12	▲ 33.3	▲15.4	▲17.9
卸・小売業	売上		3	8	11	▲ 72.7	▲46.2	▲26.6
	採算		3	8	11	▲ 72.7	▲30.8	▲42.0
	仕入単価		1	10	11	▲ 90.9	▲53.8	▲37.1
	従業員	4	6	1	11	27.3	7.7	19.6
	業況		4	7	11	▲ 63.6	▲23.1	▲40.6
	資金繰り		5	6	11	▲ 54.5	▲15.4	▲39.2
飲食・サービス業	売上	7	11	6	24	4.2	▲33.3	37.5
	採算	2	16	6	24	▲ 16.7	▲53.3	36.7
	仕入単価		9	15	24	▲ 62.5	▲73.3	10.8
	従業員	8	15	1	24	29.2	20.0	9.2
	業況	4	11	9	24	▲ 20.8	▲40.0	19.2
	資金繰り	1	19	4	24	▲ 12.5	▲33.3	20.8
不動産・その他	売上		8	3	11	▲ 27.3	▲33.3	6.1
	採算		6	4	10	▲ 40.0	▲43.5	3.5
	仕入単価	1	5	5	11	▲ 36.4	▲72.7	36.4
	従業員	3	8		11	27.3	4.3	22.9
	業況		6	5	11	▲ 45.5	▲36.0	▲9.5
	資金繰り		6	4	10	▲ 40.0	▲20.8	▲19.2

(全体)

従業員、業況、資金繰り以外で前回より若干ではあるが改善する見通しである。仕入単価は依然としてDI値が▲80ポイント近くと非常に高くなる見通しである。一方、業況、資金繰りでは若干悪化する見通しであるが、DI値は依然としてマイナスポイントが高めの見通しである。従業員は10ポイント以上悪化し人手不足感がより強まる見通しである。

(建設・建築業)

売上、仕入単価以外は前回より悪化し、特に採算のDI値は▲40ポイント以上、業況のDI値は▲40ポイント近くとマイナスポイントが高くなる見通しである。一方、仕入単価は20ポイント近く改善する見通しであるが、DI値は依然として▲80ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなる見通しである。

(製造業)

売上・採算以外で前回より悪化し、特に仕入単価は今期同様にDI値▲100ポイントになる見通しである。また、業況、資金繰りも15ポイント以上悪化し、DI値も業況が▲40ポイント近く、資金繰りが▲30ポイント以上と高くなる見通しである。一方、売上、採算は若干ではあるが改善する見通しである。

(卸・小売業)

全項目で前回より悪化し、特に採算・業況は40ポイント以上、仕入単価・資金繰りは30ポイント以上と大きく悪化する見通しである。DI値を見ると、仕入単価は▲90ポイント以上、売上・採算は▲70ポイント以上、業況は▲60ポイント以上、資金繰りは▲50ポイント以上とマイナスポイントが非常に高くなる見通しの項目が多い。

(飲食・サービス業)

従業員以外で前回より改善し、特に売上・採算は30ポイント以上と大きく改善する見通しである。特に売上のDI値はプラスに転じる見通しである。一方、仕入単価は改善する見通しだが、DI値は▲60ポイント以上と非常に高くなる見通しである。

(不動産・その他)

売上、採算、仕入単価は前回より改善する見通しである。特に仕入単価は30ポイント以上改善し、DI値も他業種と比べマイナスポイントが小さくなる見通しである。DI値を見ると、採算、業況、資金繰りは▲40ポイント以上と高くなる見通しである。

